

LOBO

業況DIは一進一退の動き

日本商工会議所が公表した3月の全産業合計の業況DIは、▼16.9と、前月から+1.2ポイントの改善。堅調な民間工事を中心とする建設業に加え、春の観光シーズン到来によりインバウンドを含む観光需要が好調に推移した一方、受注が減少した半導体や産業用機械、自動車関連を中心とする製造業の業況感が悪化した。深刻な人手不足の影響拡大や原材料費の高止まり、根強い消費者の節約志向を指摘する声は依然として多く、中小企業の業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

業種別では、建設業は、都市部を中心に民間工事が堅調に推移したほか、補正予算による公共工事の受注増の動きも見られ改善。製造業は、半導体関連の受注減少や産業用機械の弱い動きに加え、自動車関連が振るわず、悪化。卸売業は、建設業の関連商品が堅調に推移する一方、例年より高い気温で続く好天に伴う豊作で、安値となった農産物関連の売上が伸び悩み、ほぼ横ばい。小売業は、改善した

ものの、インバウンド需要の恩恵や、気温の上昇による春物需要の動きが好調な一方、消費者の節約志向は依然として根強い。サービス業は、春の観光シーズンに伴い観光需要が増加した宿泊・飲食業に加え、改元や消費増税対応による需要が増加したソフトウェア業が全体を押し上げ改善。運送業からは、人手不足の中で引越しシーズンを迎え、営業活動に支障が出ているとの声が聞かれた。

先行きについては、先行き見通しDIが▼19.1(今月比▼2.2ポイント)と悪化を見込む。個人消費の拡大やインバウンドを含めた春の観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢が続く。

(山形商工会議所を含む全国363会議所の2747企業を対象に調査)